

岩手県林業研究開発実施計画（課題一覧表） 計画期間：平成26年度～平成30年度

No.	林業技術開発の基本方向	区分	課題名（前期の課題名）	実施期間	H26	課題概要	期待される効果（終了課題の成果）
1	低コストで持続可能な森林経営を支援する技術開発	継続	コンテナ苗等を活用した育林初期経費の低減技術の開発 (植栽密度を変えた省保育による低コスト育林技術に関する研究)	H21-30	○	本県の森林環境にあった低コスト施業体系を構築するため、植栽密度を変えたり、下刈りを削減した場合の初期成長調査を行うとともに、コンテナ苗の生育特性などを明らかにし、コンテナ苗造林技術を開発する。	・コスト低減による再造林の推進と林業経営体等の収益向上
2		継続	カラマツ下刈り回数の削減技術の開発	H25-27	○	低コスト化につながる下刈り削減の有効性を調査するため、本県主要樹種のカラマツの下刈り削減が植栽木の成長、生残、樹形や競合植生の成長にどのように影響するかを明らかにし、適正な下刈り削減技術を開発する。	・カラマツ下刈削減による育林コストの低減
3		新規	広葉樹資源の有効活用に向けた更新育成技術の開発	H28-30			天然広葉樹や針広混交化した森林の伐採後の適正な更新判定や更新困難な森林の管理方法を探るため、試験地を設定して伐採前後の立地環境の制限要因を調査し、確実な更新となる条件の指標化を行う。
4	県産材の需要拡大のための多様なニーズに対応した高付加価値化技術の開発	新規	県産製材品の住宅用床・壁組への利用技術の開発	H26-29	■	県産材を住宅の床、壁の材料として利用促進するため、製材品を用いた床、壁材組の耐力データの蓄積と耐力向上技術の開発及びフローリング材の床暖房基準に対応する寸法安定性の向上技術を開発する。	・住宅部材としての県産材の利用拡大 ・県産材活用による地元工務店等の経営基盤の安定
5		継続	針葉樹大断面製材の乾燥技術の開発	H24-26	○	長伐期化に伴う針葉樹大断面の需要増に対応するため、針葉樹大径材製材品の断面寸法別の乾燥時間を評価し、樹種別乾燥スケジュール及び天然乾燥と人工乾燥を併用した乾燥コスト低減技術を開発する。	・需要者ニーズに対応した針葉樹大断面製材品の利用が拡大
6		新規	アカマツの用途拡大のための活用技術の開発	H26-30	■	アカマツの主要流通素材(2m材)を活用した付加価値の高い機能化による用途拡大のため、集中節径比の減少を目的とした集成加工材、CLTの製造技術の開発を行う。	・アカマツ材の用途拡大 ・アカマツ材の利益率向上
7	特用林産物のブランド化を支援する栽培技術の開発	継続	原木シイタケ安全安心栽培技術の開発 (乾シイタケ生産量安定化技術の開発)	H23-30	○	放射性物質の影響を受けたホダ場の環境改善を図り、安心安全なシイタケ栽培を行うため、生産現場の放射性物質の実態を明らかにし、土壌のA0層除去やビニール等敷設による環境改善対策の効果調査を行うとともに、資材利用型栽培技術を用いた栽培管理方法を明らかにする。	・放射性物質の影響によるシイタケの出荷制限解除 ・生産者の栽培意欲の向上と経営の安定 ・寒冷な気候のもとでも安定的な生産量を確保
8		継続	林内放射性物質モニタリング調査事業	H25-29	○	原発事故により森林に降下した放射性物質の移行状況や土壌のA0層を除去した場合の影響を明らかにするため、県南地域3箇所に調査区を設定し、空間放射線量率、土壌の放射性物質の測定、代替ホダマダや子実体の放射性物質濃度を測定し、その経時的変化を把握する。	・放射性物質の影響を受けたホダ場の環境改善 ・シイタケの出荷制限解除対策の基礎データ
9		新規	簡易感染診断技術を活用したマツタケ林地導入技術の開発	H27-30			マツタケの未発生地にもマツタケ菌根菌を確実に定着させるため、岩手生物工学研究所で開発中のマツタケの菌根形成を簡易に確認する技術を活用し、菌種シートを用いたアカマツ大型感染苗による未発生地へのマツタケ菌の導入技術を開発する。
10	環境と調和した豊かな森林づくりのための技術開発	継続	広葉樹被害の実態把握と防除技術の開発	H23-30	○	被害が顕在化しつつあるカイガラムシ類による広葉樹被害やH25年度に発生した激害地区を主体にナラ枯れ被害への対応のため、カイガラムシ被害の動態及び防除適期の把握のための生活史の解明、広葉樹被害木に対する樹幹注入などの防除技術の検証及び発生予察調査によるナラ枯れ被害の監視を行う。	・被害の実態把握による防除対策への反映 ・早期防除対策による森林資源の保全
11		継続	防潮林再生緊急調査事業	H24-28	◆ (拡充)	東日本大震災津波で被災した防潮林を再生するため、松くい虫抵抗性マツをはじめとする樹種の現地適応性を検証するとともに、松くい虫抵抗性アカマツ種苗について、抵抗性の向上と増産のための技術を開発する。	・植栽環境の改善による防潮林の早期成立 ・防潮林造成に際した樹種選別の多様化 ・植栽樹種の安定供給
12		新規	木質バイオマス発電等への低コスト供給システムの解明	H27-29			H26年度県内で稼働となる木質バイオマス発電への木質燃料の供給を円滑なものにするため、林業振興課で実施する実証試験等(単年度調査)の結果を踏まえ、木質未利用資源や低質材供給の新たな課題や改善点を検討し、具体事例により更に低コストな供給方法の提案と実証試験を行う。
13	高品質で付加価値の高い優良品種等の開発	継続	マツノザイセンチュウ抵抗性品種の開発	H5-30	○	松くい虫被害から貴重なアカマツ資源を守るため、マツノザイセンチュウ抵抗性候補木の選抜と候補木間の人工交配を行い、その実生苗への接種した後の生存率(抵抗性)を評価して採種圃を造成し、松くい虫被害に高い抵抗性を持つアカマツ品種を開発する。	・アカマツ林の保全とアカマツ材の利用拡大
14		継続	スギ花粉等多様な形質の家系評価と検定技術の開発	H12-30	○	経営目標や本県の環境に適した成長量、樹幹通直性及び材質に優れた優良品種及び花粉の少ないスギ品種を開発するため、スギ精英樹や人工交配家系による次代検定林の成長、形質、各種抵抗性等の特性を調査する。	・優良スギ種苗の供給による林業経営体の造林意欲の向上 ・スギ花粉症の発生抑制による県民の健康増進
15		継続	カラマツ優良種苗の安定生産に向けた技術体系化	H24-30	○	カラマツ種子の需要増に対応するため、着花促進と樹勢回復などの種子増産技術を開発するとともに、種子の品質向上のための施肥方法等の検討、優良品種の育種とさし木増殖及び優良種苗の安定的かつ効率的な生産技術を開発する。	・種子生産作業の省力化と種子の安定供給による造林面積の確保
計					12		